

## TABLE FOR TWO かわら版 補足資料 ～Vol.7 新たな支援地域・エチオピアの現状～

ご担当者の皆様

日頃は TFT プログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆様にご覧いただくための補足資料です。貴組織内でのコミュニケーションや PR 等のご参考にして頂ければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒よろしくお願いいたします。

### 【補足資料 Vol.7 をお送りするにあたって】

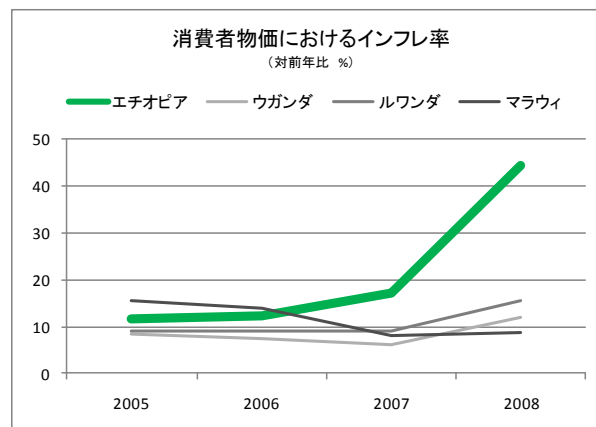
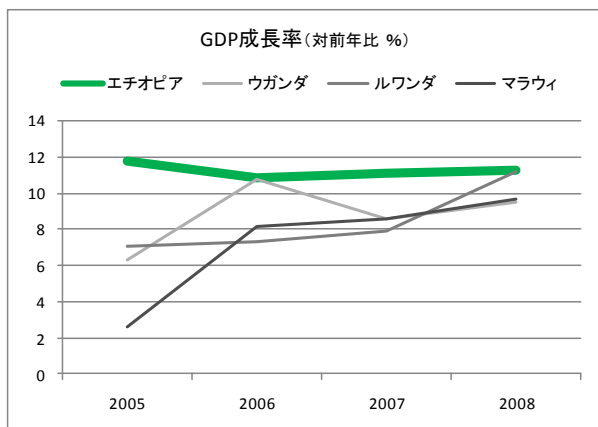
本年 2 月、支援地拡大のためにエチオピアにて視察を行って参りました。以前は学校給食が行われていたエチオピアでは、2008 年エチオピア北部を襲った大干ばつのために、それ以降から現在まで多くの学校にて学校給食が停止してしまいました。今回は、そのエチオピアの基礎状況について、また新支援地域の現状について、お伝えさせていただきます。

### 1. 基礎データ

エチオピア連邦民主共和国(通称エチオピア;首都アディス・アババ)は、エリトリア、ジブチ、ソマリア、ケニア、ウガンダ、スーダンに面する、東アフリカの内陸国です。国土はおよそ日本の 3 倍で、109.7 万平方キロメートルあります。オロモ族、アムハラ族など約 80 の民族からなる 8,000 万人近くの人口を有し、サハラ以南のアフリカではナイジェリアに次いで二番目に人口が多い国となっています。人口のおよそ 30%(エチオピア国内全雇用の約 85%)が農業に従事し、主にコーヒーやメイズ、油料種子などを輸出作物として栽培しています。(外務省 各国・地域情勢)



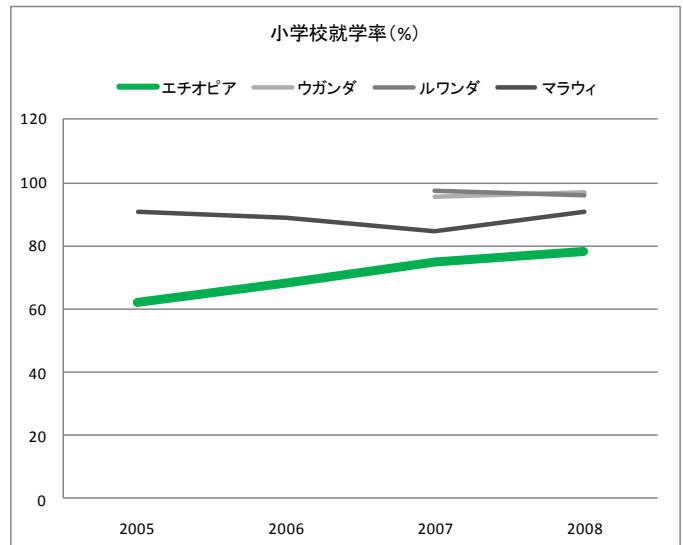
現在、エチオピアの GDP 成長率は他の TFT 支援国と比較しても、高い水準を維持しています。しかしその一方で、石油価格や食料価格の高騰によりインフレ率も 2 桁に達しており、そのために生活必需品の価格も高騰し、人々の家計は厳しい状態に追い込まれています。



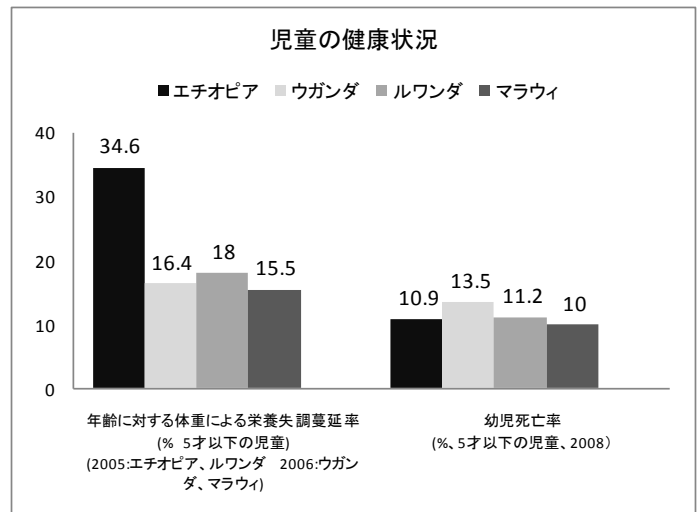
※参考:The World Bank

## 2. エチオピアに暮らす子どもたちの現状

世銀データによると、TFT 支援国内における児童の小学校就学率は、エチオピアが最も低くなっている状況となっています。2005年には62.3%、2006年68.3%、2007年74.8%、そして2008年には78.2%となっています。サハラ以南アフリカの平均96.6%(2007年時)と比較しても、依然就学率が低い状況が続いています。



国民の健康状態に注目すると、平均寿命は55才と伸びをみせており、サハラ以南アフリカの平均52才と比較しても国民の健康状態の改善は進んでいることが見られます。しかし、5才以下の児童に焦点を当てると、右の図からもわかるように TFT 支援国の中でも栄養失調蔓延率が突出して高くなっています。これは、2003年頃から慢性的に続く干ばつによる食物不足、食物価格の高騰によりこのような状況が生まれています。



※参考:The World Bank

## 3. TFT 新支援先:ティグリー州ハウゼン地区

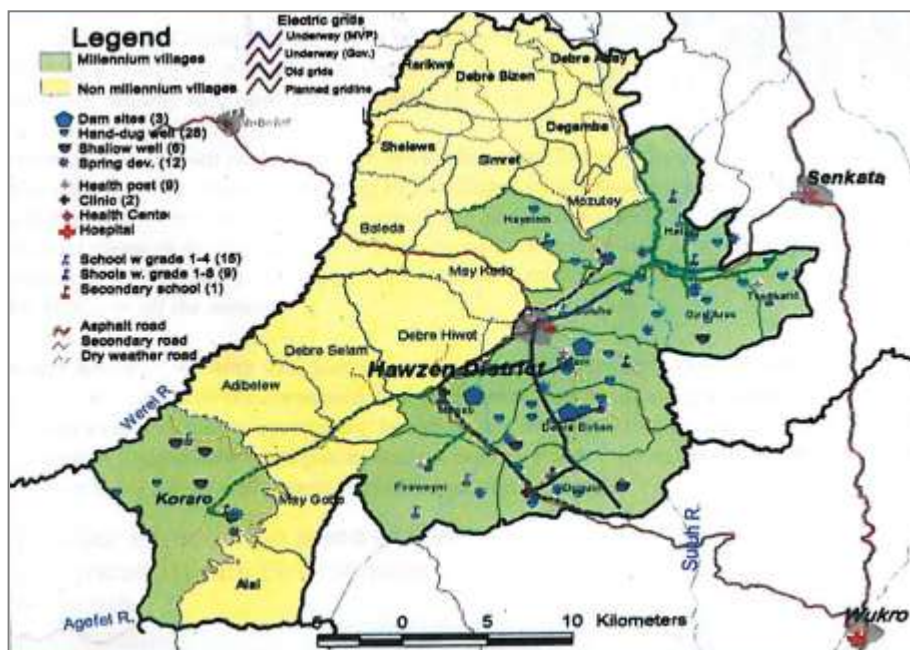


エチオピアでは、ミレニアム・ビレッジ・プロジェクトとして2005年、国内北部にあるティグリー州ハウゼン地区コロロ村での支援がスタートしました。その後2006年からは、この地区内東部にある10の村々での支援も開始されています。この地域ではおよそ7万人の人々が生活をし、農業開発や健康改善、教育支援、インフラ構築、衛生環境改善などの支援が行われています。(Millennium Village Project)

ハウゼン地区には、小学校1年生から4年生まで通う学校が15校、小学校1年生から8年生

まで通う学校が9校、そして中学校が1校、計22校の学校があります。そこでは、ミレニアム・ビレッジ・プロジェクトの一環でトレーニングを受けた、総計349名の教師たちが授業を行っており、学校の運営をより円滑に行っていくためのPTAもそれぞれの学校に設立されています。このような地域を巻き込んだ学校の運営システムは、より多くの地域住民たちに子どもたちへの学校教育についての理解を促す機会となり、結果的に中退率の減少、ジェンダー差別による女子児童への差別の抑止、また就学適齢児の就学率の上昇に繋がっています。

これら全ての学校では、TFTの他の支援国と同様に、子どもたちの健康面改善や就学率を上昇させるために、学校給食プログラムが実施されていました。しかし、2008年にエチオピアを襲った大干ばつと、その結果として起こった収穫高の激減により(一部地域では前年比80%減)、2009年からハウゼン地区内11村にある計22校での学校給食プログラムは一時中断となり、現在まで学校給食は再開されていません。この度TFTでは、新学期がスタートする9月から、このハウゼン地区内の学校にて給食プログラムへの支援を開始いたします。



↑ ハウゼン地区の地図。緑色部がミレニアム・ビレッジ・プロジェクト実施地域

【参考】

「外務省 各国・地域情勢」 < <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ethiopia/data.html> >

(2010年8月16日アクセス)

「The World Bank」 < <http://data.worldbank.org/country/ethiopia> >

(2010年8月16日アクセス)

「Millennium Promise」 < <http://www.millenniumpromise.org/> >

(2010年8月16日アクセス)

**TABLE FOR TWO かわら版 補足資料**  
 ～日本での実施状況～

参加組織

⇒ 計 317 の組織で実施中  
 (2010年9月2日現在)

内 訳	団体数	割 合
1. 企業	148	47%
2. 大学	50	16%
3. 店舗、小売食品	64	20%
4. 官公庁、公的機関	26	8%
5. 病院	9	3%
6. その他	20	6%
計	317	

これまでに送った寄付金

● 2008年未までの送金分

340,572 食分(約 1,550 人の子どもの1年分の学校給食)

※ 2007年2月のテスト実施分から2008年9月分まで

● 2009年未までの送金分

1,704,187 食分(約 7,750 人の子どもの1年分の学校給食)

※ 2008年10月分から2009年9月分まで

● 第8回送金 2010年3月19日

854,125 食分(約 3,900 人の子どもの1年分の学校給食)

※ 2009年10月分から2009年12月分まで

● 第9回送金 2010年7月16日

1,518,174 食分(約 6,900 人の子どもの1年分の学校給食)

※ 2010年1月分から2010年6月分まで

⇒合計 4,417,058 食分(約 20,077 人の子ども1年分の学校給食)